



金沢星稜大学 人間科学部  
2024 年度  
卒業研究報告書

指導教員名

主査	開 仁志
副査	川並 利治

題 目

保育職への不安感の解消

- 「学生ちょこっとほいく！」に着目して-

所属学科	こども学科
学籍番号	321577
氏 名	瀬戸 佑衣

## 目 次

はじめに	1
第 1 章 「学生ちょこっとほいく！」について	2
第 1 節 社会背景	2
第 2 節 保育における様々なマッチングの取り組み	3
第 3 節 「ちょこっとほいく！」とは	5
第 4 節 「学生ちょこっとほいく！」とは	7
第 2 章 研究方法	8
第 1 節 調査方法	8
第 2 節 調査対象	8
第 3 節 調査期間	8
第 4 節 倫理的配慮	9
第 3 章 アンケート結果及び考察	10
第 1 節 導入園へのアンケート結果及び考察	10
第 2 節 学生へのアンケート結果及び考察	16
第 3 節 園と学生の比較	25
第 4 章 改善策の検討	28

おわりに	33
第1節 「学生ちょこっとほいく！」の成果	33
第2節 「学生ちょこっとほいく！」の課題	34
第3節 「学生ちょこっとほいく！」への提案	34
第4節 本研究の限界と課題	35
引用文献	36
参考文献	37
謝辞	
資料	

## はじめに

近年、保育士不足についてのニュースをよく目にする。しかし、保育士の数だけに目を向けると、右肩上がりに増えている。厚生労働省『令和4年版 厚生労働白書-社会保障を支える人材の確保-』<sup>(1)</sup>によると、令和2年の保育士登録者数は約167万人で、その10年前(平成22年)と比べると、約65万人も増えている。だが、保育所等で保育士として働く「従事者数」は少ない。令和2年の従事者は、約64.5万人で有資格者の半数以下である。つまり、資格を持ちながらも保育士として働いていない「潜在保育士」が多くを占める。保育現場を離れた潜在保育士にも、現場復帰において復帰しやすい環境を作ることが求められる。

また、様々な保育現場を保育者養成校の段階において知ることは、自分自身に合った職場を見つけるきっかけとなり、保育者不足解決に繋がると考える。しかし、一般的に保育者養成校で保育現場を知る機会は実習やボランティアに限られ、対象となる園も数園に留まることが多い。

筆者は保育教諭を目指しており、保育職に対する不安感を抱いていた。例えば、「実習へ行って積極的に動けるだろうか。」「保育現場の人間関係は複雑なのか。」「実習でしか保育現場との関わりがない。」「そもそも保育が自分に向いているのか。」などである。安心感を持って保育教諭になるために、実習以外でも保育現場との関わりを持ち、保育の実際を知りたいと考えていた。そんな思いを持ち入学した大学1年次に、「学生ちょこっとほいく！」というシステムがあることを知った。詳しくは後述するが、「学生ちょこっとほいく！」とは、将来保育者を目指す学生と、保育所、こども園、幼稚園を繋ぐ仕組みである。

本研究は、その「学生ちょこっとほいく！」に着目し、保育職への不安感の解消に関する成果と課題を明らかにすることを目的とする。

## 第 1 章 「学生ちょこっとほいく！」について

### 第 1 節 社会背景

厚生労働省が発表したデータ<sup>(2)</sup>によると、令和 6 年 1 月の保育士の有効求人倍率は 3.54 倍となっていた。全職種の有効求人倍率が 1.35 倍であるのに比べると、保育士は高くなっているため、保育士を探している保育施設が多いという状況が窺える。各都道府県別に保育士の有効求人倍率を見ても、その大半が 2～3 倍を超えている。このことから、全国的に保育士不足になっていることが分かる。

杉山・植松ら(2024)は、保育士不足の解決策の一つとして、全国の潜在保育士の復職支援が有効であるとしている<sup>(3)</sup>。潜在保育士とは、保育士資格を有しながら現在保育士として従事していない者を指す。

杉山・植松ら(2024)は令和 4 年 7 月 1 日から 9 月 10 日に G 県内または近郊の保育現場で働いている復職保育者へアンケート調査を行った。そこで、保育職に復職した保育士へ属性と離職理由、復職同期について 310 名から回答を得ている<sup>(4)</sup>。アンケート結果の分析から、属性との関連が明らかになった。その属性とは、女性特有のライフステージの変化時における離職である。例えば、結婚、妊娠・出産、育児等である。

一方、次のライフステージの変化を機に復職に踏み切ることができていた。その変化とは、子育てが一段落したことである。その際、育児との両立への職場の理解や、ワークライフバランスを重視した労働時間などが復職の要件であった。しかし、復職の最も大きな要因は保育職の魅力や働き甲斐の再認知であった。潜在保育士の復職支援の重要な観点は、保育の魅力の再認識や意欲の喚起であることが示唆された。

このアンケートは、復職している保育士へのアンケートである。復職していない潜在保育士の離職理由はどうか。

社会福祉法人三重県社会福祉協議会、三重県保育士・保育所支援センターでは、平成30年7月に三重県における保育士登録者のうち、現在保育士として働いていない24歳～65歳の11,476名に、保育士職以外に就労している理由を問うアンケート調査を行った<sup>(5)</sup>。その結果、復職条件として「就業時間が条件に合う」が第1位であり、「労働条件・環境が良い」が第2位となった。

このことから、保育施設と潜在保育士の就業時間、労働条件、環境におけるニーズのすり合わせを行い、マッチングを行っていく必要があることが分かる。その取り組みの事例を以下、述べる。

## 第2節 保育における様々なマッチングの取り組み

図表1は、石川県内の保育における様々なマッチングの取り組みを一覧にしたものである。

図表1 石川県内の保育における様々なマッチングの取り組み一覧

主催団体	取り組み名
日本保育協会石川県支部	保育士応援フェア
金沢市	オープンナースリー
石川県 社会福祉協議会	保育士ホッと相談
人材紹介会社	A社
各園	養成校との実習

石川県と日本保育協会石川県支部が運営している「保育士応援フェア」は、保育士・保育教諭としての就職を検討している潜在保育士及び保育士養成施設の学生を対象に行われる。自分に合った就職先選びができるよう、また、保育業界に魅力を感じてもらえるよう、県内の保育所・認定こども園が参加し、理念や日頃の取り組み等を直接紹介する取

り組みである。また、保育業界への就職・復職相談会など役立つイベントも行っている。令和6年度は、7月7日に行われた。参加無料、事前申込不要、入退場自由、服装自由であり、気軽に参加することができる<sup>(6)</sup>。

金沢市が運営している「オープンナースリー」は、金沢市内の保育所・幼稚園・認定こども園の施設見学会である。幼児教育、子育て支援の現場の楽しさや、やりがいを感じてもらうことを目的としている。今年度は、令和6年8月2日・8日・21日・27日の4日間で行われた。対象は、保育者を目指して勉強中の者(養成校在学中の学生等、学年不問)、保育者養成校への進学を考えている者、保育者を目指している者(高校生等)、保育士資格・幼稚園教諭免許をすでに取得しており、保育者として再就職を考えている者などである<sup>(7)</sup>。

石川県社会福祉協議会「福サポいしかわ」は、石川県福祉の仕事マッチングサポートセンターである。「保育士ホッと相談」とは、働いている保育士に対して、保育士経験者が保育業務を通じて感じている悩みや不安に関する相談を受け付けている窓口である。相談方法は、「予約受付フォーム」に必要事項を入力し、送信する。後日、担当者より連絡が来るという流れである<sup>(8)</sup>。

人材紹介会社A社では、登録から入職までのフォローをしている。本人に代わって保育施設の条件面を調べたり、就職の取引を行ったりしている。

各園では、養成校からの実習の受け入れをしている。K大学の実習の例では、大学2年次「学校インターンシップ」10日間、配属先は附属幼稚園。大学3年次「保育実習Ⅰ(乳児)」10日間、「保育実習Ⅱ(幼児)」10日間、配属先は学生が距離、公共交通機関を基に学生自ら1園

を決め、実習を行う。「保育実習Ⅰ（乳児）」、「保育実習Ⅱ（幼児）」共に1つの保育施設）大学3年次「施設実習」10日間、配属先は学校指定の養護施設または障害者施設などである。大学4年次「幼児教育実習」10日間、配属先は附属幼稚園である。

### 第3節 「ちょこっとほいく！」とは

石川県金沢市にあるエンパワー・サポート株式会社が提供している「ちょこっとほいく！」というシステムがある。園と潜在保育者をマッチングし、1日単位でのアルバイトができるものである。保育士資格や幼稚園教諭の免許を持っているものの保育所や幼稚園などの保育施設で働いていない潜在保育者と保育施設を繋ぐシステムのことである。

「ちょこっとほいく！」がその他のマッチングと違うところは、実際に各保育施設の保育に入ったり、実際に働いている保育者と一緒に働いたりする事ができるところである。保育施設側からの視点では、人手が足りない時間のみに人材を雇う事ができる。潜在保育者側からの視点では、一度現場を離れてブランクが不安という人が多いため、空き時間を活用し自分のペースで勤務することができる。結婚、妊娠、出産を終えた人でも、家事や育児をしながら短時間で働くことができる。子育ても仕事も両立したい人にとって1日2時間から応募ができる。また、園の雰囲気を知ることができる。紹介や見学だけでは掴めない、職場の人間関係や子どもたちの様子を見ることができる。

「ちょこっとほいく！」の応募方法は以下の通りである。まずは、求人検索をする。気軽にどのような案件があるか閲覧する事ができる。次に「ちょこっとほいく！」のアプリケーションをインストール



し、アカウントを登録。アプリケーションからエントリーをする。保育施設から採用確定の連絡が来たら、該当の日に現場へ行き、勤務する。不明点や質問は、アプリケーション内ある、保育施設との個別チャット機能でやりとりができる。勤務を終えると報酬が振り込まれるという仕組みである。

「ちょこっとほいく！」は令和6年1月1日に起こった能登半島地震の避難場所でも被災者支援として活用された。石川県金沢市にあるホテルでは令和6年1月4日以降、一部の部屋を2次避難所として活用していた。開設されている託児所「みんなのこども部屋」は、同市内に2次避難した親が利用できるようにと、若者支援に取り組む一般社団法人等が運営した。しかし、利用者の多くが乳幼児であったことから、保育スタッフの確保が必要となった。そこで、株式会社エンパワーサポートでは、「ちょこっとほいく！」での被災者支援の募集をかけた。保育者や保育学生が集まり、乳幼児の受け入れが可能となった。次第に被災した子どもたちは活発に動くようになったが、様々な年代の子どもたちの共存を考える必要が出てきた。例えば、0歳児が寝ている側で、1歳児がハイハイする。その横で、5歳児がボールで遊んでいる等ある。動きたい、遊びたい気持ちがある中、限られたスペースで幅広い年齢の子たちが一緒に過ごさなければならない。そこでエリアを分けてスタッフを配置して安全性を確保する、静と動の時間を分けて活動する等工夫を取り入れた。専門知識や行事づくりなどに秀でた保育士に加え、大学生ボランティアが元気いっぱい、自由に過ごしやすい場を演出し、現場全体を統括する管理者と保育者が三位一体となって、安全安心な場を作ることができた<sup>(9)</sup>。

#### 第4節 「学生ちょこっとほいく！」とは

「学生ちょこっとほいく！」は、K大学の学生の声からできた。K大学のY学生は、保育者を目指していたが、保育実習以外での保育現場との関わりが少なく保育職に対する不安感を持っていた。「ちょこっとほいく！」の仕組みを基に学生に向けての「学生ちょこっとほいく！」が誕生した。「学生ちょこっとほいく！」とは、保育士資格・幼稚園教諭免許取得見込みの保育者養成校に通う学生と保育施設をマッチングする仕組みである。1日単位から様々な保育施設でアルバイトの経験ができる。応募方法など使い方は「ちょこっとほいく！」と同様である。

第1章第2節にまとめた通り、石川県における保育の様々なマッチングはあるが、これまでのマッチングは園紹介や、園見学の内容が多い。実際に保育現場の体験を行うことができる機会もあるが、数箇所の体験にとどまるケースが多かった。「学生ちょこっとほいく！」では学生の行きたいと思う施設に現場体験として1日からアルバイトができる。

学生の声から作られたシステムであるため、保育職への不安感の解消という点で役割を果たすと考える。

調査では、「学生ちょこっとほいく！」が現在どのようにして学生や導入園が利用しているのかを調べていく。

## 第 2 章 研究方法

### 第 1 節 調査方法

「学生ちょこっとほいく！」導入園には、利用した効果。保育施設からみたニーズを知るため、Google フォームでアンケート調査を実施した。

「学生ちょこっとほいく！」利用対象者である K 大学の保育士資格・幼稚園教諭免許取得見込みである 1～4 年生（以下「保育学生」）には、利用したことのある学生（以下「利用学生」）、利用したことのない学生（以下「未利用学生」）を分けて調査を行った。その際、筆者自身の「学生ちょこっとほいく！」を利用した体験とエンパワー・サポート株式会社代表高井氏の意見を基に筆者が独自で作成した Google フォームのアンケートを用いた。

### 第 2 節 調査対象

調査対象は、「学生ちょこっとほいく！」を利用している保育施設 23 園。「学生ちょこっとほいく！」の利用対象であり、K 大学の保育士資格・幼稚園教諭免許取得見込みである 1～4 年生 94 名である。

### 第 3 節 調査期間

「学生ちょこっとほいく！」導入園

令和 6 年 11 月 1 日～11 月 11 日

「学生ちょこっとほいく！」利用学生

令和 6 年 10 月 31 日～11 月 14 日

「学生ちょこっとほいく！」未利用学生

令和 6 年 10 月 31 日～11 月 14 日

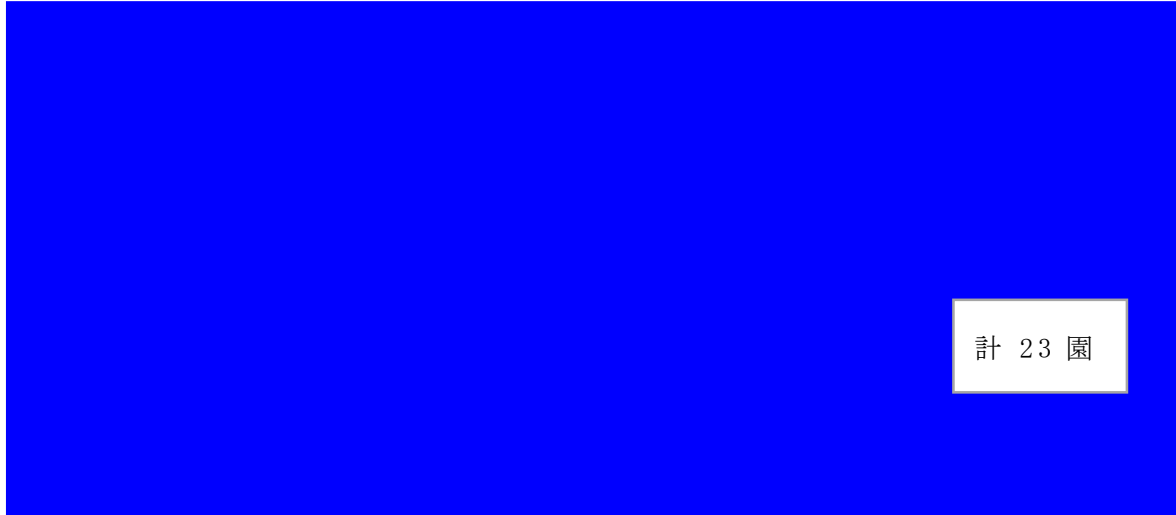
#### 第 4 節 倫理的配慮

回答から得られたデータは、統計的に処理し、個人が特定されないよう利用すること、研究以外の目的には利用しないこと、調査の回答結果や回答を拒否することによって不利益を被らないことを書面と口頭で説明し、了承を得た。

### 第3章 アンケート結果及び考察

#### 第1節 導入園へのアンケート結果及び考察

回収率は、33園中23園（69.7%）である。



「学生ちょこっとほいく！」を利用している理由では、「学生の声を聞きたい」「園を知ってもらいたい」「新卒者採用の参考にしたい」「人手不足」「その他」の5項目を設けた。

結果、「園を知ってもらいたい」と答えた園が19園（82.6%）、  
「新卒者採用の参考にしたい」と答えた園が12園（52.2%）、  
「学生の声を聞きたい」と答えた園は、11園（47.8%）であった。

この結果から、人手不足の解消というよりは、導入園は学生との関わりを求めていると考える。



「学生ちょこっとほいく！」を募集している時間の調査では、「平日午前」「平日午後」「土曜午前」「土曜午後」「イベント時」「その他」の6項目を設けた。

結果、「平日の午後」と答えた園が14園(60.9%)、平日午前と答えた園が9園(39.1%)であった。また、その他の回答では、「現在利用を検討している」と答えた園が2園あった。

この結果から、保育施設では多くの子どもが利用している時間帯での募集率が高く、平日の学生募集が多いのだと考えられる。利用する学生は、平日の場合、授業やサークル活動などがあり忙しいことが予想される。詳しくは、第4節で比較をしていきたい。



これまでに利用した学生の人数では、「0名」「1～5名」「6～10名」「11～15名」「16～20名」「20名以上」の6項目を設けた。

結果、0名と答えた園が、10園(43.5%)とほとんどを占めている。反対に、11～15名と答えた園が1園(4.3%)であった。

この結果から、利用者の多い園もあれば利用者のいない園もある事が分かる。利用する学生が来なくては、システムが成り立たない。利用者の多い園と利用者のいない園ではどのような点が違うのか理由を調べる必要性が高いと考える。

計 23 園

「募集内容」では筆者の経験をもとに、「保育補助」「清掃」「製作活動」「見学」「その他」の5項目を設けた。一番多く票が集まった項目は、「保育補助」23園（100%）であった。また、「その他」では、「職員と話す時間を設けている」1園（4.3%）という回答もあった。

この結果から導入園は、人手不足による「清掃」や「製作活動」の募集よりも実際に子どもと関わることのできる「保育補助」の募集を多く掛けていることが分かる。保育学生は有資格者ではないが、「保育補助」という仕事を通して園を知ってもらいたいという思いが導入園にはあると考える。

計 19 園

利用してみた感想を問うアンケートでは、「良かった」「良くなかった（改善してほしい）」の2項目を設けた。

導入している園23園中19園がこの質問に回答した。「良かった」と答えた園は、13園（68.4%）、「良くなかった（改善して欲しい）」と答えた園は、6園（31.6%）という結果になった。



「学生ちょこっとほいく！」を導入して「良かった」と答えた13園にその理由を聞いた。理由には、「学生の意見を聞く事ができた」「園を知ってもらえた」「新卒所採用の参考になった」「人手不足の解消」「その他」の5項目を設けた。

「良かった」と答えた園の理由として、「園を知ってもらえた」と答えた園が13名中11名（84.6%）となった。

図表2「利用している理由」の結果でもあった通り、「園を知ってもらいたい」というニーズが保育施設には多いと考える。



計 9 園

「学生ちょこっとほいく！」を導入して「良くなかった（改善してほしい）」と答えた 9 園にその理由を聞いた。理由には、「学生が来ない」「新卒者採用に繋がらない」「その他」の 3 項目を設けた。

結果では、「学生が来ない」という回答が 9 名（100%）、「新卒者採用に繋がらない」という回答が 3 園（33.3%）となった。

この結果をもとに、なぜ学生が来ないのかを後に学生目線のアンケート考察していく。

さらに活用していくために改善策があれば教えてください

- ・希望枠を一つずつ入力して募集するのが煩雑すぎるので I/F を改善してほしい。
- ・受け入れの際の保育現場の負担軽減、受け入れ学生の有効活用方法
- ・保育の現場を知る機会として認知してもらえれば良いと思う。
- ・学生さんの目に留まるような対応のアドバイスをいただきたい。
- ・学生さんが何を目的として応募してきたのか知りたい。（目的によって、重視してあげられる部分が変わってくる。例えば職員との情報交換が目的ならその時間を通常より多めに取るし、子どもと関わりた

いことが目的なら、保育室で過ごす時間をなるべく多めに取るなどの対応ができる。)

- ・募集をかけているのですが、なかなか応募がないのが現状。もう少し気軽に参加してほしいと感じます。
- ・今までは、園側からの説明やプレゼン等のようなものが多かったので、もっと学生側からの意見が聞きたいです。
- ・今回初めて利用し、使い勝手がまだ把握できておらず採用にいたっていませんが、今後も活用していきたいです。
- ・自宅が近い学生さんからの応募しかないので、遠くても行ってみたいと思ってもらえるようなアピールを園でも考えていきたいと思っています。

「さらに活用していくために改善策があれば教えてください」という記述式アンケート欄を設けた。

この結果から、導入園は「学生が来ない」という現状であることが再確認できる。今後「学生ちょこっとほいく！」が導入園にとっても、学生にとっても良いものになるにはどのように使っていけば良いかを第4章で考えていく。

## 第 2 節 学生へのアンケート結果及び考察

回収率は、108 名中 94 名（87%）である。

### 1 対象者の属性

#### < 利用学生 >



「学生ちょこっとほいく！」利用学生 22 名の内訳は、大学 4 年生 10 名（45.5%）、大学 3 年生 9 名（40.9%）、大学 2 年生 3 名（13.6%）、大学 1 年生 0 名（0%）であった。

この結果から、学年が上がると利用率も上がる事が分かる。学年が上がると、保育実習などの実践的な経験も増え、保育への意識が高まるのではないかと考える。

#### < 未利用学生 >



「学生ちょこっとほいく！」を未利用学生 72 名のうち、大学 4 年生 6 名 (8.3%)、大学 3 年生 25 名 (34.7%)、大学 2 年生 17 名 (23.6%)、大学 1 年生 24 名 (33.3%) であった。

この結果から、利用学生は 22 名、未利用学生は 72 名であり、学年によっても人数は大きく差がある事が分かった。また、大学 1 年生は 24 名中 24 名が利用した事がない事が分かった。

## 2 学生の不安感

### < 利用学生 >



### < 未利用学生 >



利用学生、未利用学生共に、「学生生活の中で保育職に対して不安なこ

と（だった）ことはありますか」という質問を設けた。質問内容は、「実習で子どもと上手く関われるか不安」「実習以外での園との関わりが少ない」「自分が保育者に向いているのか分からない」「就職先をどのように決めたら良いか分からない」「職場の人間関係」「給料」「ない」「その他」という8項目を設けた。

利用学生のうち、最も多かった不安は、「職場の人間関係」14名（63.6%）であった。

この結果から、「職場の人間関係」という点では、パンフレットや、園紹介だけでは分からない部分であるため「学生ちょこっとほいく！」で園を実際に訪問してみたいニーズがあるのではないかと考える。

未利用学生の結果では、「自分が保育者に向いているか分からない」と答えた学生が40名（55.6%）となる。「その他」の回答には、「保育者になりたいという気持ちが薄くなっている」「本当にこの職で良いのか不安」があった。

この結果から、未利用学生は、そもそも保育という仕事に就くことに確信や意欲が少なかったり迷いがあったりするため、「学生ちょこっとほいく！」の活用まで結びついていない可能性があると考えられる。

図表13 不安感の比較

質問内容	利用学生	未利用学生	差
実習で子どもと上手く関われるか不安	59.1%	36.1%	22.0%
実習以外で園との関わりが無い	45.5%	30.6%	14.9%

職場の人間関係	63.6%	55.6%	8.0%
給料	59.1%	52.8%	6.3%
自分が保育者に向いているのか分からない	54.5%	51.4%	3.1%
ない	0.0%	4.2%	-4.2%
就職先をどのようにして決めたら良いか分からない	50.0%	55.6%	-5.6%

さらに、図表 13 の結果から、利用学生と未利用学生には「実習で子どもと上手く関われるか不安」「実習以外での園との関わりが少ない」という不安感に大きな差があることが分かった。利用学生の方が実習で子どもと関わることへの不安を抱え、実習以外で園との関わりが無いと感じているからこそ、「学生ちょこっとほいく！」で子どもや園と関わる機会を持とうとしているのではないかと考える。

ここからは、「学生ちょこっとほいく！」の利用学生と未利用学生に分けて詳しくその特性を考察していく。

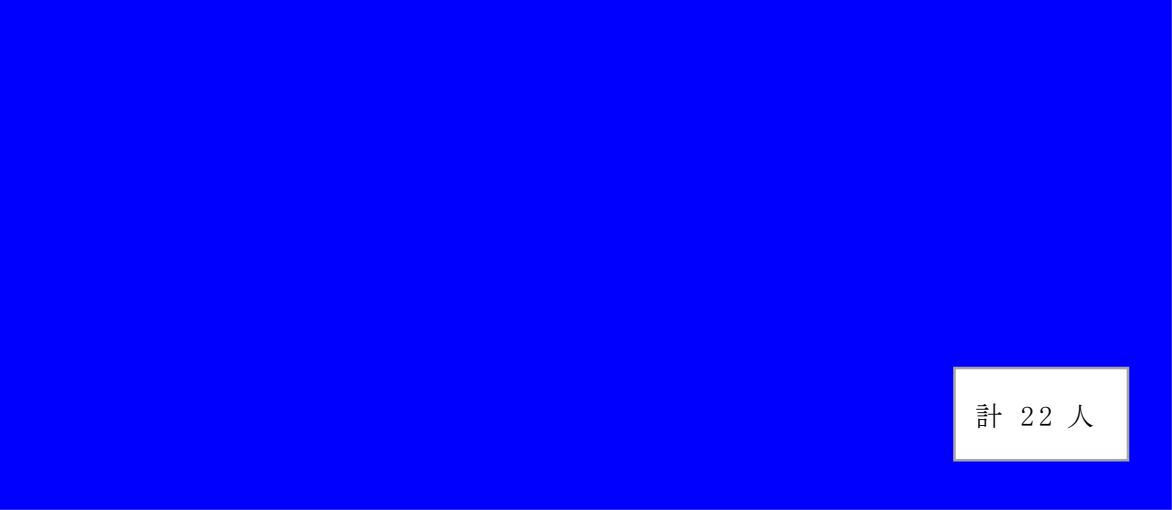
### 3 利用学生のアンケート結果



「『学生ちょこっとほいく！』の良いところはなんですか」という質問では、「ないと思う」「分からない」「実習前に行くことで保育現場を経験できる」「自分にあった就職先を見つける事ができる」「子どもと関わる事ができる」「自分が保育者に向いているのか参考になる」「アルバイトでお金がもらえる」「その他」の8項目を設けた。

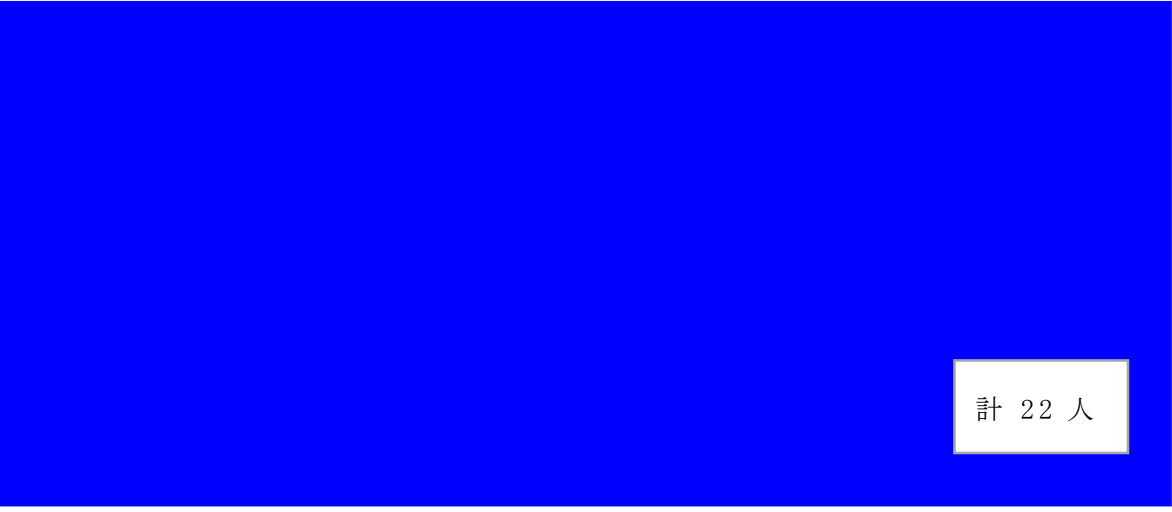
「子どもと関わる事ができる」と答えた学生が16名（72.7%）、  
「実習前に行くことで保育現場を経験できる」と答えた学生が13名（59.1%）であった。「その他」の回答では、「やめる手続きがいらない、その時限りで終わること、嫌だったら次は行かなくて良い」という回答もあった。

この結果から、就職というイメージよりも実習に向けて「学生ちょこっとほいく！」を利用する人が多いと予想される。また、「その他」の回答結果から、「学生ちょこっとほいく！」は学生側が自分の行きたいと思ったタイミングで園に申し込めることがメリットだと分かる。



計 22 人

「利用した園の数」を問うアンケートでは、「学生ちょこっとほいく！」を利用学生22名のうち、1～5園と答えた学生が20名（90.9%）、6～10園は1名（4.5%）、11～15園は1名（4.5%）であった。



計 22 人

「利用回数」を問うアンケートでは、「学生ちょこっとほいく！」の利用学生22名のうち、1～5回と答えた学生が18名（81.8%）、6～10回は3名（13.6%）、11～15回は1名（4.5%）であった。

この結果から、「利用園数」と「利用回数」を比較すると「利用回数」の学生が多い事が分かる。2回以上同じ園へ行っている学生もいるという事が分かる。



利用してみた感想を問うアンケートでは、「良かった」「良くなかった（改善してほしい）」の2項目を設けた。

「良かった」と答えた学生は、学生22名中22名（100%）であった。

この結果から、「学生ちょこっとほいく！」を利用した全ての学生が「学生ちょこっとほいく！」は良いと思っているのだと分かった。



「学生ちょこっとほいく！」を利用して「良かった」と答えた学生にその理由を問うアンケートでは、「園を知る事ができた」「実習前に子どもと関わられた」「就職の参考になった」「アルバイトでお金がもらえた」「その他」の5項目を設けた。

「園を知る事ができた」と答えた学生が19名（86.4%）、「就職の参考になった」と答えた学生が13名（59.1%）であった。

結果から、利用学生は園を知ることに良さを感じていることが分かる。

次に「学生ちょこっとほいく！」未利用学生へのアンケート調査を見ていく。

#### 4 未利用学生のアンケート結果



「『学生ちょこっとほいく!』の良いところはなんですか」という質問では、利用学生と同様に、「ないと思う」「分からない」「実習前に行くことで保育現場を経験できる」「自分にあった就職先を見つける事ができる」「子どもと関わる事ができる」「自分が保育者に向いているのか参考になる」「アルバイトでお金がもらえる」「その他」の8項目を設けた。

その結果、「実習前に行くことで保育現場を経験できる」と答えた学生は、49名(68.1%)、「自分にあった就職先を見つける事ができる」「アルバイトでお金がもらえる」と答えた学生が30名(41.7%)であった。

図表9、10の結果を比較してみると、「学生ちょこっとほいく!」を未利用学生の学年の割合は大学1、2年生が多い。保育実習をこれから控えている大学1、2年生のニーズは、保育実習前にアルバイトで保育施設を経験してみたいという点であると分かる。

計 72 人

「学生ちょこっとほいく！」を利用していない理由を問うアンケートでは、「交通手段がない」「1人で園に行くことに抵抗がある」「応募方法がわからない」「保育者になる予定はない」「大学の時間割と合わない」「アルバイト、サークル活動で忙しい」「その他」の7項目を設けた。

結果、「アルバイト、サークル活動で忙しい」と答えた学生は38名(52.8%)、「1人で園に行くことに抵抗がある」と答えた学生は34名(47.2%)であった。「その他」の回答には、「就職予定の地域にならない」、「どんなことをするのか分からない」という回答もあった。

「1人で行くことに抵抗がある」という結果から、「学生ちょこっとほいく！」では友達と2人で応募できる条件もある事が学生に伝わっていないと考える。また、「交通手段がない」という回答では、導入園が迎えにいくというサービスもある事が伝わっていない。「応募方法が分からない」という回答や、「その他」の回答からは、「どんなことをするのか分からない」という回答もある。未利用学生は、そもそも使い方や仕事内容が伝わっていないことが分かった。

計 51 人

「『学生ちょこっとほいく！』以外での子どもとの関わりはありますか」という質問では、「アルバイト」「サークル活動」「ボランティア」「その他」の4項目を設けた。

72名中51名の学生がこの質問に答えた。結果は、「アルバイト」17名(33.3%)、「ボランティア」15名(29.4%)、「サークル活動」6名(11.8%)、「ない」6名(11.8%)、「ゼミ活動」2名(3.9%)、「その他」では、「家庭で」、「1歳と3歳の甥っ子がいる」という回答もあった。

「なし」答えた学生を含め、回答が無かった学生も子どもとの関わりが無いと考えると、27名の学生は関わりが無い事が分かる。残りの45名の学生は関わりがある事が分かった。

### 第3節 園と学生の比較

利用学生へのアンケート図表14の「『学生ちょこっとほいく！』の良いところはなんですか」という問いでは、「子どもと関わることができる」が最も多い。その結果に対して、導入園へのアンケート図表5募集内容では「保育補助」が最も多かった。

「保育補助」という仕事は、「清掃」等の用務というより、実際に子どもと関わる、保育者と子どもの関わりを見る、保育者同士の関係性を

見る、園の施設環境を体験するなど、これから就職する学生において、その園の実際を知る経験となると考える。学生は、子どもと関わることを求めており（図表 14 参照）、園も子どもと関わる経験ができる「保育補助」の募集を多く出していることから互いのニーズが合致していることが分かる。

また、利用学生へのアンケート図表 17「『学生ちょこっとほいく！』を利用して良かった理由」では、「園を知ることができた」と答えた回答が最も多い。導入園へのアンケート図表 7 の「『学生ちょこっとほいく！』を利用して良かったと答えた理由」でも同様に「園を知ってもらえた」という回答が最も多かった。この比較から、利用学生と導入園の良いと感じている部分は同じであることが分かった。

また、この回答結果から、利用学生の多くが持つ「職場の人間関係が不安」（図表 11、12 参照）というところの解決に寄り添う事ができるのではないかと考える。

一方、導入園へのアンケート図表 8 の「『学生ちょこっとほいく！』を利用して良くなかったと答えた園へ理由」を聞いた設問では、「学生が来ない」と答えた園が 9 園中 9 園（100%）となった。なぜ学生が来ないのかを未利用学生へのアンケートと比較し、考えていく。

未利用学生へのアンケート図表 18「『学生ちょこっとほいく！』の良いところはなんですか」という問いには、良いところを答える人もいる反面、「ないと思う」「分からない」と答えた学生は合わせて 10 名（13.9%）であった。図表 19「利用していない理由」の問いには、「応募方法が分からない」「どんなことをするのか分からない」という回答があった。このことから、「学生ちょこっとほいく！」を利用することで保育学生の持つ保育職への不安感を解消するためには、まず、応募方法や仕事内容を

細かく周知していくことが課題であると考ええる。

未利用学生へのアンケート図表 19「利用していない理由」では、「アルバイト、サークル活動で忙しい」という回答が最も多かった。一方、導入園へのアンケート図表 3「『学生ちょこっとほいく！』を応募している時間」の調査では、「平日午後」、「平日午前」が多い。

この比較から、学生の空いている時間と導入園の募集している時間が合っていないのではないだろうか。第 4 章では、これからの「学生ちょこっとほいく！」について改善策提案を試みたい。

## 第4章 改善策の検討

アンケート結果の考察をもとに、「学生ちょこっとほいく！」の開発者であるエンパワー・サポート株式会社代表高井氏と今後の「学生ちょこっとほいく！」のあり方について話し合いを行った。以下は話し合いの内容である。

まず、図表19の「『学生ちょこっとほいく！』未利用の学生が利用していない理由」で挙げられていた「交通手段がない」「1人で園に行くことに抵抗がある」「応募方法が分からない」という回答に着目する。そもそも「学生ちょこっとほいく！」の利用方法や、内容が学生に伝わっていないことを高井氏に伝えた。

高井) K大学にはこれまでも、授業の中での紹介や説明をしに行ってきたが周知不足であることが分かった。

筆者) 紹介や説明をする際にどうしたら中身が伝わるか考えたい。

高井) 利用して良かったと感じている学生の声を届けることが1番なのではないか。また、気軽に園に行けるということを更に学生に伝えたい。

筆者) 1人で園へ行くことが不安という声があったが、友達と参加できる募集内容もあるのか。

高井) 友達と参加できる募集内容はある。また、これからの考えとして、バディ制度を試したいと考えている。バディ制度とは、何度も「学生ちょこっとほいく！」を利用したことがある学生と初めて「学生ちょこっとほいく！」を利用する学生がバディとなって園へ行くことである。

筆者) 1人で園へ行くことに抵抗がある学生にとっては初めての踏み

出しが心強くなると考える。また、バディ制度で園に訪問した際に、気軽さや良さを感じてもらいたい。

筆者)「交通手段がない」という回答もあったが、園が迎えに行くという募集内容はあるのか。

高井) 現在もその募集内容の園はある。自宅の近くでなくても様々な園を知ってもらいたい。

この話し合いから、「学生ちょこっとほいく！」の紹介や説明の際には、伝えたい内容を深く考える必要があると分かった。

次に、導入園へのアンケートからは「学生が来ない」という声が多いこと、未利用学生へのアンケートからは「アルバイト、サークル活動で忙しい」という声が多いことをもとに時間帯に関する話し合いを行った。

筆者) 大学の授業が無い日に園からの募集が無かったり、園の募集が多い日に学生は授業だったりアンケート結果をみると時間帯が上手く合っていないようだと考える。

高井) 学生は、学年ごとに時間割が変わる。学生の空いている時間を把握してから、導入園に時間帯の提案をするほうが学生は来やすいのではないかと。そこで、「学生ちょこっとほいく！」の登録をする際に、大体の行ける日を1人ひとり入力してもらおうシステムにすると良いのではないだろうか。例えば、「大学1年次のAさんは月曜日午後が空いている。」「大学4年次のBさんは月曜日午後、火曜日午前が空いている。」などを入力してもらおう。そこから導入園は、学生の空いている時間を知った上で募集をかけるという方法である。

筆者) その方法だと、時間帯のすれ違いが減ると考える。しかし、「アルバイトやサークル活動で忙しい」と答えた学生は空いている時間が



そもそも少ないのではないだろうか。

高井) アルバイトは報酬が貰える。サークル活動では仲間と過ごす楽しさがある。それを超える魅力が必要である。

筆者)「学生ちょこっとほいく！」はアルバイトとして報酬がただで、保育の経験値も上がる。私は魅力があると感じる。しかし、初めて行く人にとっては、「園に行ったら何かしないといけないのか。」「何をしたら良いのか。」という不安があるのかもしれない。

高井) 園側は学生と出会うことや、園を知ってもらいたいという気軽な気持ちで待っている。そこから何度か利用が続くと、就職に繋がると考えている。

高井)「学生ちょこっとほいく！」の募集内容に、園の広報に関する仕事を追加してみたいと考える。それは、学生がその園を知り、知った情報を広報係として発信するものである。保育施設と保育学生がコラボして広報を行っている事例がある。それは、「MiTUKETA みつけた。私らしい保育の道。」(以下「MiTUKETA」)というインスタグラムである。

「MiTUKETA」では、保育学生が各保育施設で働いている保育者を1人ピックアップし、インタビューを行うという広報活動である。保育施設の紹介というよりは、一緒に働きたいと思う人を探せるような仕組みである。広報という活動は、保育者になってからも必要な能力である。園児獲得や保護者への伝え方は「学生ちょこっとほいく！」としての広報という仕事において培われるのではないか。

筆者) 広報という仕事は、園を知るためのツールにもなる。導入園側のアンケートには、「園を知ってもらいたい」という意見、学生側のアンケートにも「園を知ることができた」という意見があったため、園

を知るという視点では良いと考える。

高井) 広報の仕事をする中で、保育者と深く話すことができる。学生の不安感のアンケートにもあった「人間関係」という点においても効果があると考えられる。また、仕事内容が決まっていることで学生は気軽に応募できると考える。

この話し合いから、「学生ちょこっとほいく！」の募集内容に園の「広報」の仕事を追加してみても良いのではないかというアイデアが生まれた。そこから、学生の応募動機は様々であるのではないかという視点に着目した。

導入園への改善点を問うアンケートでは、「学生さんが何を目的として応募してきたのか知りたい。(目的によって、重視してあげられる部分が変わってくる。例えば職員との情報交換が目的ならその時間を通常より多めに取るし、子どもと関わりたいことが目的なら、保育室で過ごす時間をなるべく多めに取るなどの対応ができる)」という回答があった。それをもとに改善策を話し合った。

高井) 応募動機、応募目的のチェック項目を応募する際につけてみてはどうか。

筆者) たしかに、アンケート結果をみると、大学1、2年生は実習の練習のための活用、大学3、4年生は就職活動のための活用だと捉えられる。

高井) 園側もそれぞれの学生の応募動機や応募目的が分かると、関わり方が変わってくると考えられる。ただ子どもと関わりたい学生には、保育補助の時間を長くとることができる。また、就職活動として利用している学生には、職員との面談の時間を多くとることができる。

筆者) チェック項目があるだけでも、大学 1、2 年生の利用率が上がると予想できる。筆者自身も、大学 1 年次「学生ちょこっとほいく！」を初めて利用した際に、「自分は役に立てるのだろうか。」「評価されるのではないか。」という気持ちがあった。

高井) 具体的にチェック項目を考えると、応募動機と、応募目的に分けられそうである。応募動機は、「収入アップ」「保育の経験値アップ」「就職活動」「その他」はどうだろうか。応募目的は、「職員との情報交換」「子どもと関わりたい」「見学したい」などが挙げられる。複数選択の方が良いだろうか。

筆者) 複数選択になるのではないかと予想する。

この話し合いから、「学生ちょこっとほいく！」を応募する段階で、応募動機、応募目的を入力する提案ができた。

## おわりに

本研究では、「学生ちょこっとほいく！」の利用による、保育職への不安感の解消に関する成果と課題を明らかにすることを目的としていた。明らかになったことを以下、述べていく。

### 第1節 「学生ちょこっとほいく！」の成果

調査結果から、「学生ちょこっとほいく！」を導入している保育施設は、学生との繋がりを求めており、園を知ってもらいたいという理由で導入している園が多いことが分かった。また、「学生ちょこっとほいく！」利用学生は、園を知る事ができたと実感していることが分かった。「学生ちょこっとほいく！」は、他のマッチングと比較して、実際に保育に入り、保育の仕事ができること、1日単位からの募集であるため、1つの保育施設に限らず同時に複数の保育施設を体験できることが魅力であると分かった。

保育職への不安感として多くの学生が答えた回答は、職場の人間関係だった。これまでのマッチングに多い、園紹介や見学では人間関係を深く知ることはできない。実際にその園の保育に入ることや、職員との会話を通して知ることは、学生の保育職への不安感を解消することに繋がると考える。「学生ちょこっとほいく！」を使って、いくつもの園の中から自分にあった保育を見つけることで、安心感を持って保育という仕事に就くことができるのではないか。

また、学生のうちに様々な保育施設を知ることは、就職後においても有効であると考えられる。保育の方法や、園の雰囲気は保育施設によって様々であることから、人生のライフステージの変化などの理由で離職した際、学生の時に「学生ちょこっとほいく！」で利用した園で復職したいと思

ったり、保育職に戻ろうと思ったりという決め手になると考える。

## 第2節 「学生ちょこっとほいく！」の課題

「学生ちょこっとほいく！」の課題は学生が来ないこと。そして、「学生ちょこっとほいく！」の魅力が学生に伝わっていないことであると調査結果から分かった。

学生が来ない理由には、「学生ちょこっとほいく！」の使い方、仕事内容、周知不足が挙げられる。利用方法や仕事内容を学生に伝えていく必要がある。利用しない理由では、アルバイトやサークル活動による学生の忙しさが多く回答されていた。固定のアルバイトとは違い、様々な保育施設を体験できることや、気軽に利用することができることを伝えていくことが課題である。また、交通手段がなく利用していない学生や、一人で園に行くことに抵抗がある学生には、募集内容に「お迎え制度」がある園や、友達と参加できる園があることを発信していくべきだと分かった。

園との繋がる方法は、人それぞれであるが、「学生ちょこっとほいく！」の魅力を知った上で選んで欲しいと筆者は考える。

## 第3節 「学生ちょこっとほいく！」への提案

第4章では、「学生ちょこっとほいく！」の開発者である株式会社エンパワー・サポート代表高井氏と調査結果をもとに改善策を考えた。

まずは、「学生ちょこっとほいく！」の魅力が伝わるように、説明や紹介をする際に要点を伝えることである。

次に、導入園には園を知ってもらいたいという思いがあること、学生が楽しいと思える仕事内容は何かということから、園の広報の仕事を募

集してみてもはどうだろうかという提案ができた。

また、園からの改善策の提案をもとに、学生の応募動機や応募目的をチェック項目として応募する際に表示していくことである。調査から、大学 1、2 年生は実習に向けて、大学 3、4 年生は就職活動として等と利用する理由が変化することが分かった。チェック項目で応募動機、応募目的を聞くことで、保育施設側も学生にも互いにとって有効な時間となると考える。

保育学生が持つ保育職への不安感の解消は、様々な保育施設との関わりや直接的な現場体験によって安心感に変わることが分かった。今後の課題として、「学生ちょこっとほいく！」の魅力を保育学生に伝えること、「学生ちょこっとほいく！」を保育施設、保育学生にとってより良い仕組みにしていくことが求められると考える。

#### **第 4 節 本研究の限界と課題**

本研究は保育職への不安感の解消を目的として「学生ちょこっとほいく！」を取り上げて調査を行った。その取り組みの成果と課題を明らかにし、改善点の提案を行った。しかし、今回は改善点の提案に留まったため、改善策の効果については今後も継続的な調査が望まれるところである。また、他の保育職への不安感の解消に繋がる取り組みについても幅広く調査を行いたいと考える。

## 引用文献

(1)厚生労働省(2024),令和4年版 厚生労働白書-社会保障を支える人材の確保-,59,

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/21/d1/zentai.pdf>. (情報取得 2024/11/10)

(2)厚生労働省(2024),一般職業紹介状況(職業安定業務統計),

[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/0c26b1be/20240424\\_policies\\_hoiku\\_109.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/0c26b1be/20240424_policies_hoiku_109.pdf). (情報取得 2024/11/10)

(3)杉山祐子、植松勝子、友永良子、南谷悠子、松川亜矢、田村哲嗣(2024)

保育職における復職支援の観点に関する研究-復職保育者調査結果に関する専門的視点とAI分析による-,人間福祉者学会誌第23巻第2号,51-59.

(4)同上

(5)三重県保育士・保育所支援センター(2018),三重県潜在保育士就労等意識調査報告書,社会福祉法人三重県社会福祉協議会,26-27,

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000835184.pdf>. (情報取得 2024/11/10)

(6)石川保育士応援フェア(2024),

<https://ishikawa-hoikushi.com>. (情報取得 2024/11/14)

(7)金沢市オープンナースリー(2024),

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/soshikikarasagasu/yojikyoiukucen-ter/gyomuannai/1/1/6784.html>. (情報取得 2024/11/14)

(8)社会福祉法人石川県社会福祉協議会(2024), <https://www.isk->

shakyo.or.jp/qualification/soudan.html. (情報取得 2024/11/14)

(9)こども環境学会 (2024), 特集避難地の遊び支援 (能登半島地震と遊び場), <https://magazine.children-env.org/?p=1446>. (情報取得 2024/11/14)

## 参考文献

・ 畔蒜和希 (2020), 保育労働者のオンラインコミュニティと多彩な働き方, 日本地理学会.

・ 甲斐智大 (2021), 東京圏における保育士不足がもたらした地方圏の保育労働市場への影響-東北地方における新卒保育労働市場に着目して-, 経済地理学年報第 67 巻.

・ 中日新聞 (2024), 避難者託児アプリで救う「ちょこっとほいく!」金沢の現場と保育士をつなぐ,  
<https://www.chunichi.co.jp/article/849262>. (情報取得 2024/11/14)

・ 山部聡、近藤真理子 (2023), 保育士不足におけるインクルーシブへの課題, 日本の科学者 Vol. 58.



## 謝辞

最後に、本研究に協力して下さったよしたけこども園、住吉こども園、まことこども園、田上こども園、蓮代寺こども園、松陽こども園、社会福祉法人大和善隣館、湯野こども園、あかしあこども園、鶴が丘こども園、認定こども園ひょうたん、にじの丘こども園、ちよの幼稚園、みかわこども園、長土塀こども園、神田認定こども園、くるみ保育園、つるぎこども園、北安江こども園、めぐみこども園、東金沢こども園、内灘はまなすこども園、認定こども園うのけ幼稚園の皆様、エンパワー・サポート株式会社の皆様、金沢星稜大学人間科学部こども学科の皆様にご感謝を申し上げます。

「学生ちょこっとほいく！」導入園へのアンケート調査

資料

(1) 園名

(2) 「学生ちょこっとほいく！」を利用している理由

学生の声を知りたい

園を知ってもらいたい

新卒者採用の参考にしたい

人手不足

その他：

(3) 「学生ちょこっとほいく！」を募集している時間

平日午前

平日午後

土曜午前

土曜午後

イベント時

その他：

(4) これまでに利用した学生の人数

0名

1～5名

6～10名

11～15名

16～20名

20名以上

(5) 「学生ちょこっとほいく！」の応募内容

保育補助

製作補助

清掃

見学

その他：

(6) 「学生ちょこっとほいく！」を利用してみて

良かった

良くなかった（改善してほしい）

良かったと答えた方 その理由

学生の意見を聞く事ができた

園を知ってもらえた

新卒者採用の参考になった

人手不足の解消

その他：

(7) 良くなかったと答えた方 その理由

学生が来ない

新卒者採用に繋がらない

その他：

(8) さらに活用していくために改善策があれば教えてください

## 「学生ちょこっとほいく！」利用学生へのアンケート調査

(1) 学年

大学 1 年生

大学 2 年生

大学 3 年生

大学 4 年生

(2) 学生生活の中で保育職に対して不安なこと（不安だったこと）はありますか

ない

実習で子どもと上手く関われるか不安

実習以外での園との関わりがない

自分が保育者に向いているか分からない

就職先をどのように決めたら良いか分からない

職場の人間関係

給料

その他：

(3) 「学生ちょこっとほいく！」の良いところはなんですか

ないと思う

分からない

実習前に行くことで保育現場を経験できる

自分に合った就職先を見つけられる

子どもと関わる事ができる

自分が保育者に向いているか参考になる

アルバイトでお金をもらえる

その他：

(4) 利用した園の数

1～5 園

6～10 園

11～15 園

15 園以上

(5) 利用回数

1～5回

6～10回

11～15回

15回以上

(6) 利用してみて

良かった

良くなかった（改善してほしい）

(7) 良かったと答えた方 その理由

園を知ることができた

実習前に子どもと関われた

就職の参考になった

アルバイトでお金がもらえた

その他：

(8) 良くなかった（改善してほしい）と答えた方

思っていた仕事内容では無かった

交通手段がない

応募に手間がかかる

学生への指導方法

時間に合わない

その他：

## 「学生ちょこっとほいく！」未利用学生へのアンケート調査

(1) 学年

大学1年

大学2年

大学 3 年

大学 4 年

(2) 学生生活の中で保育職に対して不安なこと（不安だったこと）はありますか

ない

実習で子どもと上手く関われるか不安

実習以外での園との関わりがない

自分が保育者に向いているのか分からない

就職先をどのように決めたら良いか分からない

職場の人間関係

給料

その他：

(3) 「学生ちょこっとほいく！」の良いと思うところ

ないと思う

分からない

実習前に行く事で保育現場を経験できる

自分に合った就職先を見つけられる

自分が保育者に向いているのか参考になる

アルバイトでお金をもらえる

その他：

(4) 利用していない理由

交通手段がない

1人で園に行くことに抵抗がある

応募方法が分からない

保育者になる予定はない

大学の時間割と合わない

アルバイト、サークル活動などで忙しい

その他：

(5) 「学生ちょこっとほいく！」以外で子どもとの関わりはありますか

アルバイト

サークル活動

ボランティア

その他：